

# かけ橋

第24号

平成25年12月発行  
潟東地域コミュニティ協議会

「うんまかったね」  
「珍味、グルメ巡りしてます」  
「子どもの頃、食べた味、野鴨は50年ぶり」



かもん！カモノねぎまつり実行委員監事  
越後中央農協潟東地区担当経営管理委員

佐藤 智

今年で18回目のかもん・カモノねぎまつり会場では見出しの声に多く出会いました。地元の人「うんまかったね」、あるいはグルメ巡りしている人で東京から来た人は「珍味グルメなお味」、そして若い時、村外県外に出て50年ぶりに故郷の懐かしの味を食べに来た色々な思いを持った多くの人達、食された鴨汁定食は2,000食、入場者数約2,500人、当日券売り切れでお断りし料理屋さんの紹介をしたのが100名弱でした。このイベントの第1回目から関わってきた佐藤さんから次のようなお話を聞きました。「あの当



時、減反田圃にネギ栽培が推奨され、私も作りました。そして農業士会のメンバーではそのネギの販売、消費増に色々と話しあっていましたが遠藤地区の会員から鑑潟があった関係で野鴨汁

が昔から食され、それにはネギが似合う。鴨汁には+ネギとの発想でこのイベントが始まりました。今ではこの前売り券がプラチナ価値があると村外の人達から聞きますが今年の流行語におもてなしが入ったそうですね。この心は昔から既に潟東ではあります。このイベントに来てくれた村外の人達が潟東の人の良さ、インターの交通の便の良さに気がついて住んでくれることを願います。それと最初の頃と比較すると野



菜販売の店が多く出店するようになりましたが作る農業から売る農業にもっと皆さんに力をいれてほしいです。」と言っていました。



会場では潟東東小学校の子どもが参加者に「かもん！潟東クイズ」を出題し、このイベントを盛り上げていました。クイズは授業で習った「潟東の文化、特産物、鑑潟のかも猟のこと」などの出題でした。3年生担任の川上先生は「知らない人との関わり、コミュニケーションの大切さを体験的に知ったようです。また、大人の人達からガンバツテルね、と褒められたことが子どもたちの自信に繋がりました。」と話していました。

東小学校3年生21人  
イベント盛り上げに「役

# みんなで考えよう！ 潟東の小学校の未来 小学校統合小委員会たより

## 統合の詳細について意見を出し合いました

このたよりは、小学校統合小委員会で話し合われた事がらや当日の資料などについて、地域の皆さんにお知らせするものです。

第2回小学校統合小委員会を11月19日(火)に農村環境改善センターにおいて開きました。この会では、委員がそれぞれ統合に対する今の考えを出し合うことから始め、お互いの考えを比較し検討しました。

### 小委員会で話し合われた内容

○現在の保育園が平屋建てであり、災害時に避難対応ができないので、隣接する農協施設跡地に、新設小学校を建設できないか。 →今後も、営農センターとして利用する。

○新設が望ましいが、統合時期などを考えると、3小学校のうち、いずれかに増築して統合してほしい。

○潟東地区で1小学校であれば、新設統合が望ましいと考える。災害対応は、どこに建設しても同じである。

○三校のいずれかで増築と考えたが、新築もよいと思う。でも、工期、予算確保などをみると、増築がよいだろう。

○当初、新築でと考えたが、工期、予算を考慮して増築での統合を望む。

○急いで統合を望む。新築を希望するが、今後の地域の児童減少を考えると、三校のなかで増築、プレハブ何でもよいから早く統合を進めてほしい。

○新築は、費用がかかる、建設期間が長いなどから、増築でもしょうがないかと考える。これから入学する児童は新築を望むかもしれないが、増築で早期の統合を希望する。

○増築は短期間で良いが、いずれの小学校で増築しても緑地が減少し、教育に良い環境を確保できるか。理想は、プレハブですぐ統合し、その後、新築してはどうだろう。

○新築による統合の長い期間は待てない。早い統合を望むから、増築でもしょうがない。

○早急にプレハブも含めた増築を行い、将来的な新築を望む。



第2回小委員会の協議の様子

委員長：増築して早急に統合とする意見、あるいはプレハブ対応で統合、並行しながら新設新築とする意見、については今後地域への説明会を行うがその際に小委員会の意見を示すために委員会としてまとめなければならない。新設新築の場合、用地確保を含めて10年単位の計画となるが大方の意見は「統合は早く」としているのでその方向でまとめてよいか。

○統合と同時進行で、新築を考えてはどうか。現在の3校の老朽化を見ると、そこに増築をしてよいかと疑問がでる。プレハブでいったん統合し、あらためて新築を進めていくべきである。

○要望なのだから予算を考えずに、先ず「新築する」という理想的な形にまとめることが必要である。

○プレハブでよいかから統合し、新築を将来的に行うという内容で要望してはどうか。

委員長：統合の方法としてはすべての学校を閉校とし、新たな校名を考えるとする形が良いか。また既存校に増築して統合校舎とする意見、プレハブで対応し並行して新設新築とするべき意見、10年スパンの中で新設新築校舎で統合する意見もある。スクールバスについては、学校の位置も決まらない中で、詳細を決めることもできないので、地元の要望を取り入れた形で、運行をお願いするということがよいか。

(異議なしの声多数)

委員長：今後の地元合意の取り方についてであるが、3月下旬までに概要をまとめ、6月までに要望書としてまとめることとする。については、どのように地域へ説明していくか。

○東小学区では、前回、地域単位で行った。細かな意見等は地域ごとが多く出る。

○西小学区では、校区単位でと考えている。

○大原では地域で行ったが、回覧板での周知だったためか、集まりが悪かった。

○教育委員会では細かな説明を行う方針かと思うが、それからしても地域ごとが望ましいと思う。集まる集まらないは関係ないこととし、何段階にわたって行う必要がある。

○学校のPTAと地域と並列で説明会はできないか。

○自治会の総会などを利用して説明してはどうか。その際に意見聴取する。

委員長：総会を活用することも案として、12月7日に自治会長が集まるので、その際にいつ開催するかなどを含め要請する。

## 第2回小委員会 協議のまとめ

- ・早期統合することを優先し、校舎などの施設については一部増築、あるいは将来の新築を念頭に入れるとする意見等で市や教育委員会継続的に協議を続けていくことでどうか。
- ・スクールバスについては統合の前提であり、地域の要望を尊重した運行を強く要望していく。
- ・学校区ごとの状況に応じて説明会を開催し、丁寧に周知を図っていく。

このたよりに関する問い合わせは、新潟市教育委員会教育総務課企画室へお願いします。

(TEL:025-226-3178 FAX:025-230-0401 E-mail: somu.ed@city.niigata.lg.jp)

なお、当日の配布資料やこの小委員会たよりは、後日、新潟市のホームページに掲載いたします。

渦東地区  
食生活改善推進委員  
渦東中学校生徒に  
調理実習を。



10月11日、渦東健康センターで渦東中学校三年生を対象に区役所横山栄養士から「受験前の食生活」として受験前に直ぐに役立つお話を聞いた。その後渦東地区食生活改善推進委員さん達の指導による調理実習をした。これは「地域の子供たちの健康を守る」ために食を通じた教育を（食育運動）、中学校、コミ協環境・福祉・保健部会の渦東地区食生活改善推進委員の協働により行われた。同委員の石井智恵子さんは「受験前の体調管理を食の面から

考えました。食育は直ぐに効果は出ないが生涯を通じた健康づくりのため、子供の時から良い食習慣を身につけることが大切」と話していました。

渦東地区芸能祭  
開かれる

11月9日、渦東農村環境改善センターで渦東地区芸能祭が開かれました。これは渦東総合文化祭の一環で12団体が日頃の練習成果を披露しました。新舞踊、ダンス、マジック、三味線等、

内容は多彩で応援に来た友人、家族らの大きな拍手と歓声を受けていました。渦東総合文化祭実行委員の保坂洋美さんは「芸能祭が40周年と言う一つの節目、多くの人から見てもらいたいとの願いで芸能祭を土曜日としました。土曜日は福祉巡回バスが運行されること、そして



始まりも終わりもバスの運行時間を考慮しました。学校の子どもたち、保育園児等が出演してくれるのもっと活気がある芸能祭になるのですが。来年の課題です。ね」と言っていました。

予告

霞が関発・キャリア官僚が語る

「農政の大変革期を迎えて」

講師 農林水産省経営局  
経営政策課経営安定室長  
福田 英明

1月11日午後3時よりコミ協総務部主催の講演会が開催されます。これは当地区の基幹産業である農業が40年余り続いた減反政策から減反廃止とする農政の大変換期に将来の不安と期待を併せ持つ農業者に、最新の国の農業政策情報を聞くとするものであります。講師の福田さんは称名地区の出身者で減反政策担当部署で今回の政策変更の第一線で活躍しています。また講演終了後、希望者のみ合併前に行われていた各界、各層による「年賀交歓会」を行います。参加希望者はコミ協事務所 ☎ 86-3123 にお電話ください。

講演会

- 日時 1月11日(土) 午後3時～4時
- 場所 渦東ゆう学館

年賀交歓会

- 日時 1月11日(土) 午後4時30分
- 場所 長吉
- 参加費 6,000円

編集後記

1年は早いものです。新渦市の冬の風物詩ともなったかもん・カモねぎはこの時期の天候としてはマアマアでした。ところでコミ協だよりは月1回の発行を目標としています。地域の話題、それから各団体等の活躍、活動等の情報提供をコミ協事務所に連絡ください。☎ 8613123。取材に行きます。また遠藤在住の中村正義さんがコミ協専属カメラマンとして登録してくれました。中村さんは「色々なイベント会場に出没していますので宜しく。広報に掲載されない多数の現場写真がコミ協のパソコンに入っていますのでほしい人はコミ協事務所へ」と言っています。取材時は「コミ協」の腕章、それと中村さんの顔写真を載せましたので顔を覚えて下さい。



カメラマン  
中村正義

